６　慣用的な表現［語句］

　慣用的な表現というのは、ことわざ、慣用句、格言、金言・警句などを指します。そのほか、「言うに言えない」「物心がつく」のような、言い回しが決まっている表現も含んでいます。

　これらは表現の形が決まっているので、使いすぎると形式的な印象が強くなり、真実味が感じられなくなります。しかし、意味は明確なので、わかりやすさを増す効果もあります。

使う際の留意点

①　言い方が決まっているので、勝手に言葉を換えてはいけない。

　●誤りやすい例

　×息もせずに走る　→○息もつがずに走る

　×道草を食べる　　→○道草を食う

　×をふりまく　→○をふりまく

　×熱にうなされる　→○熱にうかされる

　×言うにおっしゃれない

　　　　　　　　　　→○言うに言えない

②　意味の同じ、あるいは似ている表現を混同して使わないようにする。

　●誤りやすい例

　×猫に真珠　　　→○猫に小判

　　　　　　　　　　○豚に真珠

　×素人はだし　　→○素人ばなれ

　　　　　　　　　　○くろうとはだし

　×調子の波に乗る→○調子に乗る

　　　　　　　　　　○波に乗る

　×食指をそそる　→○食指を動かす

　　　　　　　　　　○食欲をそそる

　×苦汁を味わう　→○苦汁をなめる

　　　　　　　　　　○苦渋を味わう

誤りやすい四字熟語

　次の四字熟語はよく使うので、正しい漢字で書けるようにしっかり覚えておきたい。

（赤字が特に誤りやすい漢字。）

レッスン１　次のことわざや慣用句の空欄に入る最も適当な語を書きなさい。

⑴　石の上にも［　　　］年　　　　　　⑹　［　　　］をたたいて渡る

⑵　頭かくして［　　　］かくさず　　　⑺　良薬は［　　　］に苦し

⑶　鬼の目にも［　　　］　　　　　　　⑻　魚心あれば［　　　］

⑷　サルも［　　　］から落ちる　　　　⑼　能あるタカは［　　　］をかくす

⑸　棚から［　　　］　　　　　　　　　⑽　百聞は［　　　］にしかず

レッスン２　次の四字熟語の空欄に入る最も適当な漢字を書きなさい。

⑴　一喜［　　　］憂　　　　　　　⑹　七［　　　］八倒　　　　　　　⑾　無我［　　　］中

⑵　二［　　　］三文　　　　　　　⑺　絶［　　　］絶命　　　　　　　⑿　［　　　］死回生

⑶　大同小［　　　］ 　　　　　　 ⑻　温故知［　　　］　　　　　　　⒀　馬耳［　　　］風

⑷　適材［　　　］所　　　　　　　⑼　［　　　］刀直入　　　　　　　⒁　心［　　　］一転

⑸　千差［　　　］別　　　　　　　⑽　自［　　　］自得　　　　　　　⒂　我田［　　　］水

レッスン３　次のことわざについて、正しい意味をそれぞれ選んで、記号を○で囲みなさい。

⑴　エビでタイをつる

　ａ　大きな利益を得るためには、それ相応の犠牲が必要である。

　ｂ　わずかの負担で多くの利益を得る。

　ｃ　普通でない手段で多くの利益を得る。

⑵　情けは人のためならず

　ａ　安易な同情は、かえって本人のためにならない。

　ｂ　相手の身分に関係なく、他人には情けをかけるべきである。

　ｃ　他人に親切にしておけば、必ずよい報いがある。

⑶　過ぎたるはなお及ばざるがごとし

　ａ　多すぎるのは不足と同様によくない。

　ｂ　過去のことを後悔しても仕方がない。

　ｃ　時代はめぐるもので、過去の出来事は未来を暗示しているものである。

⑷　かわいい子には旅をさせよ

　ａ　子供がかわいければ、甘やかさないで世間のつらさを経験させるべきである。

　ｂ　親元から遠く離れて生活しているわが子は、いっそうかわいく思えるものである。

　ｃ　自分の子には、あちらこちら旅行させて見聞を広めさせよ。

⑸　住めば都

　ａ　どうせ住むのであれば、住環境の整っている都会がよい。

　ｂ　どんな所でも、住み慣れるとそこが住みやすくいいところに思われるものである。

　ｃ　大勢が住むようになって都になるのであり、最初から栄えている町はない。

【解答】

レッスン１

　⑴三　　⑵尻　⑶涙　　⑷木　⑸ぼた餅

　⑹石橋　⑺口　⑻水心　⑼爪　⑽一見

レッスン２

　⑴一　⑵束　⑶異　⑷適　⑸万　⑹転　⑺体　⑻新

　⑼単　⑽業　⑾夢　⑿起　⒀東　⒁機　⒂引

レッスン３

　⑴ｂ　⑵ｃ　⑶ａ　⑷ａ　⑸ｂ